

オンライン墓地 散策のススメ

2011.4

ネットにお墓が現われていることをご存知だろうか？ インターネットの時代、お墓もネットに作ってしまった。もしようと、Windows 95のころから、いくつかのサイトが作られてきた。

2011年の今、地球上にはオンライン墓地がいくつも出現している。全体としてみればまだ発展途上だろうけど、今後需要は増えていきそうだし、すでにびっくりするほど巨大なサイトもある。

実世界でお墓めぐりはどちらかというと典雅な趣味だ。同好会は少なくないしガイドブックも出版されている。文豪や武将の墓を訪ねて、歴史に思いをはせる。木陰にひっそりとたたずむ苔むした墓石、鳥のさえずりだけが聞こえる静けさを味わう。世間の喧騒を離れ別の空間にまぎれこんだようだ。ネットの世界でもその雰囲気は味わえる。テーストは少々違うけれど。知的好奇心も満たしてくれ。なんと行って今マル

チイメディアの時代だ。最近の著名な故人は生前の姿を写真や動画で披露してくれるし、業績や年譜も載っていたりする。記念館のようなものだ。一般人のお墓も身近になった。マルチメディアメモリアを世界に発信している人々がいる。実際のお墓では名前を読んで通り過ぎるしかなかつた他人も、写真や経歴や趣味や好きな言葉を公開している。こんな人がいたのだと僥倖ことができる。

各国のオンライン墓地を見てもよい。まずはアメリカ、実際の墓地「Hollywood Forever」のオンライン版から。

この公園墓地はハリウッド観光の名所のひとつ。170人からの有名人が眠る。土柄が俳優や歌手が多い。航空写真の横にお墓のリストがあるの、知った名前を見つけたらクリックしてみよう。墓の場所がクローズアップされる。ひとしきり眺めたらお墓をクリック。「LifeStories™」が開く。故人のメモリアルページだ。腰を落ち着けて故人の映るビデオを鑑賞するのもいい。写真を見たり、記帳を読んだり、気が向けばメッセージを書き

残すこともできる。

一般人の「LifeStories™」も公開されている。全リストを誰でも見ることができ、で、海の向こうでかつて生きていた普通の人々の人生を垣間見ることができ。何か思うことがあればメッセージを書き残すこともできる。ネットにお墓を作る人は見も知らない人とのそういうつながりも望んでいたのではないだろうか。2002年には数千の一般人「LifeStories™」が既にあつたという。^{※1}

次は、中国の「清明記念」。ここはすごい、国家の一大事業かと思わせる。オンライン墓あり、訃報館あり、記念館がある。「ニュースの数や内容、仮想参拝も充実している。オンラインから一年と少し過ぎたところだがますます勢いづいていようだ。

まず「网上陵园」は全国のオンライン墓地群だ。全国各地からクリックすると、巨大公園墓地が現れる。その地方の「网上陵园」だ。緑のなかに墓石が点在し、ところどころには記念館がある。ゲーム画面のようだ、という記事があつたがまさしくそのとおりだ。^{※2}

名前を検索すると墓前に行

けるが、場所が分かっていれば、地図上を移動するとより散策的になる。

お墓は日本と似ている。花やろうそくや線香などといったお供えの種類も似ている。一般の人のお墓が多いのだが日本から見ず知らずのものが参拝していいのか？ インターネットで公開しているのだから、やはり世界から参拝者が訪れることは想定されているに違いない。

「故人空間」は訃報のページ。国内の訃報だけでなく元ソニー社長大賀さんの訃報も大きく載っている。訃報の碑に進むと、そこでは映画「おくりびと」のメロデーが流れる中お参りができるようになっていた。「推奨空間」というコーナーは、地域の功労者だろうか。写真と名前が並ぶ。個人史を読めば、故人を讃えたいと思うかもしれない。

そんなときは、個人史横のポタンをクリックして前述の巨大公園墓地の墓前に行ける。そこでお花を供えメッセージを残せるようになってい

る。「主題記念館」も訪れたい。古今東西の歴史的な事件や著名人の記念館群だ。今はこの四月没後8周年のレスリー・チヤン記念館が人気だった。(「さらば、わが愛／覇王別

姫「、ブエノスアイレス」な
どに出演）
東日本大震災の記念館もあ
る。関連記事を読むことがで
き、祭壇に向かって犠牲者を
慰霊することもできる。慰霊
として、花、ろうそく、線香
を供え、行礼・祈福ができる
ようになつていく。多くの人
が弔意を表してくれていた。
「清明記念」は、国立葬儀
業界ポータルサイト「中国清
明網」の中にある。中国は人
口に対して使える土地が少な
く土地は貴重なのだそうだ。
とくに人口の集中する都市部
では墓不足が深刻で「火葬の
後は散骨」が奨励されている
という。だからお墓はネット
上にとなるのだろうか。
このネット墓地のスケール
とサービスの実績は中国の本
気度を証明しているようだ。
中国のオンライン墓地はここ
だけはない。他にもオンライン
ン墓地が随所にある。

だ。
200近くの一般のお墓に
ついて一覧表で施主と故人の
名前が分かるようになってい
る。そのなかに「公開されて
いるお墓」がある。このお
墓は簡素なだけどなにか心
を打つものがある。実際、通
りすがりごとわつてお参り
していく人がいる。記帳が読
めて書けるコミュニティ的な
墓地だ。
運営は日野市のアイキャン
株式会社。ホームページによ
れば、建設、介護、葬送を事
業とする会社だが、遺言、献
体、成年後見人、ペット、交
流広場などのメニューがあり
葬送のワンストップサービス
を目指している。見受けられ
る。「ペットお墓参り」もオン
ライン墓地になっていて公開
もしている。
他には、カナダやイタリア、
韓国にもオンライン墓地があ
る。カナダのある一般向けメ
モリアルサイトは「全世界か
ら利用できる」とうたつて
いる。実際いろいろな国の人
がメモリアルを作り公開して
いる。
日本では何故オンライン墓
地が普及しないのだろうか。
1997年にはオンライン墓

地の本も出ている。※6決して発想がなかったわけではない。動画サイトでは、故人のメモリアル動画が上げられている。しかし、意識調査などによれば多くの日本人は今もオンライン墓地に否定的だ。墓地を非公開にすることも、デジタル化を拒む心情を表している。※45

そんなデジタル墓後進国と思える日本だが、少し前にフランスシユメモリ付位牌なるものを高校生が提案している。2009年第16回デザセン優勝の「故人との思い出の取り扱い」だ。オンライン墓地ではないが、デジタル化に対する考え方を知る上で参考になりそう。これはYouTubeで見ることができる。

ネット墓地が増えると、オンライン墓地めぐりのポータルサイトができるのではないだろうか。世界の実墓を案内するサイトは既にある。動画サイトです。有名現象がみられるように、有名人だけでなく一般のお墓も注目されるかもしれない。

また、古墳を見てその時代を研究するように、ネット墓地をみてなにか研究する人も現われるかもしれないと思う次第だ。

ネット墓地を散策してみても、みなさんはどのような感想を持つだろうか。

参照サイト

※1 WIRE NEWS 2002/11/8 故人のデジタル

映像を納めるオンライン霊園

※2 CHAINA DAIRY 2010/4/6 Online tombs becoming more popular

※3 asahi.com 2011/1/16 ネット墓地、専用

ページに遺影や戒名 東京の寺、考案

※4 MONEYzine 2011/1/23 お墓を持たずにネットでお参り「ネット墓地」に対するユーザーの意外な反応

※5 意識調査「ネット墓地」日本で普及する？実施期間 2011年1月23日-2011年2月2日

参照書籍

※6 インターネットの「墓」革命 サイバーストーン 松島如戒 平成9年

* 外国サイトではブラウザの翻訳機能を使いました。